京城新報

●定價 ▲一部二錢▲一ヶ月前金 ●三ヶ月前金 ▲六ヶ月前金 ▲壹年前金
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回金三十錢▲四號活字十四字詰一行金四十五錢
●陰曆 十月二十三日
發行兼編輯人 印刷人 山下英爾
京城西署西小門通
發行所 京城新報社 電話六六三

葉錢處分論(上)

在京城 南冥生

(一)韓內地金融の狀況

韓內地に於て金融機關の設置あるは重もなる五六の都市に我十八或は農工銀行等の設置あるのみ其他の市邑に至ては實際特設の金融機關なく商人的商業の下に働く人的生活を爲し百圓の資金に對して百圓の商業を爲し金融上には何等の便利なく在留本邦人の如き久しく金融機關に渴し資金の運轉に窮し商業上充分の辣腕を揮ふを得ず遺利を目前に逸しつゝ不本意ながら小經營にのみ甘んじ來りしなり而して南韓地方の流通貨は殆んど葉錢のみにして市場の取引殆んど葉錢に限られ新貨の流通頗る僅少なり故に內地の商民は此葉錢ありて以て經濟を保安し彼我の商業亦皆此葉錢取引なるを以て隨て商業の活潑敏速を失ひ通商上に障害を及ぼすこと實に尠少に非ず而かも一旦之を他に引上ぐることある必ずや之れに換ゆの財貨を以て補はざれば彼我商人及一般人民の經濟に一大恐慌を來すべきは明白なる現象なりと云ふべし

然るに葉錢の引上に着手してより既に一年有半着々其實効を擧げつゝあるに反し其目的たる新貨の流通が其効を奏せざるのみならず葉錢引上より生ずる地方經濟界の恐慌を懲する能はず益々其疾患に陷らしめんとす地方內地の實情を目撃せるものは實に等しく寒心する所なり以下葉錢流出の狀況と其處分策に就て具體的に論述せん

(二)葉錢流出の狀況

最も多く葉錢の流出を見るは農民の納稅なり而かも其納稅に於ける葉錢は直接支金庫又は郵便取扱所に納付することなく居留地又は居留地附近の本邦人の新貨に換算し歸りて納稅するを例とす是れ畢竟十五割なる法定率が市場の相場と五六割の差額あるを以て利を漁せんとするもの丶其間に商略を弄するは免かれ難き數にして殊に納人自身に於ても一結八十兩其儘を納付すると新貨に換算して納付するとは目前四五圓の損得に關する譯なればなり故に何時の間にか葉錢は流通頗る減少し之れに換へんとする新貨は人民の一顧盼をも受けざるなり之れ地方人民の頑迷に基因するは言はずして明かなりと雖も即ち新貨の價値を周知せしむるに適當の方法を講せざるも亦其罪なりと云はざるべからず而して一旦流出したる葉錢は其廻來すること極めて少なし尤も居留地に向て流出せざる以上は再び人民の護得する所となり再分配に行はれ別段生產事業を攪亂することあらざるべきも居留地に交換せる葉錢の大部は地金として本邦に輸送されつゝあるを以て全く廻來の見込なくなり今昨三十九年中葉錢の海外に流出したるものを各開港地別に擧ぐれば

▲韓國輸出葉錢

月別	釜山	元山	鎮南浦	木浦	群山	城津
一月	三四	○	○	一、三三○	○	九六九
二月	四二○	○	○	一、一三○	○	四六二
三月	一、三一○	○	○	四、四○○	五六八	一、四六三
四月	五八九	○	○	五、二五五	六○○	○
五月	二、一七六	六三○	○	六、四○○	二、八九六	三、○○○
六月	四、五一五	五一六	○	七、一七○	三、○二四	六
七月	○	二○八	○	○	二、五五八	二、二三三
八月	一、○三三	三三三	五○○	三、一九○	一、三四四	六、七八三
九月	一、四九○	五二	○	二、五一○	○	一、二○四
十月	七、六九八	九二○	○	二、八六一	四、七二八	二、七三六
十一月	九、二六○	二、六三○	○	二、七三四	七、四○○	一七
十二月	二、九三○	一、三五三	○	三、七五○	二、四三○	八三四
合計	三○、七三七	四、四八五	五○○	四九、一九九	四八、六一四	三、六二一五

斯くの如く葉錢は毎月流通高を減少せるを以て半可通の人民は之れ全く日本が韓國の民力を疲らす手段に外ならずと信じ之を誹議するものすらあり各地方に起る暴徒に稍もすれば良民の雷同するものあるが如き一面這裡の消息を示して餘りありと云ふべきなり地方財務の局に當るの士豈平凡にして可ならんや

一年雜記

統監府の人物評判　對星樓山人

政事は人間の能不能で得失判るのである、統監府の施政を評判するに先つて其幕中の人才に就て評論せしめよ、固より其評判記の適否は我儕の責である、少くとも一年間の短かき時日の罪である。

統監府とは我帝國の半島保護政廳を申すことにて、其長官は彼此申す迄も無く明治の最高元勳伊藤公である、公は已に臣民以上で、又英雄以上であるから草莽の書生論は暫らく止すこと丶すべし、斯る大政治家の幕中に羅致せらる丶各人材中に於て先づ頭角を現はしたるは總務の長官鶴原君である、君の半世は大坂市長以外に於て餘り政事家に關係ある歷史を見出さぬが、果然人才は長く大坂の市中に埋沒せられずして半島保護政治の總務を視るべく赴任した。

君の半面は甚だ沈默で、半面は激しく陽氣である、此過去一年間に於て多大の功蹟を立てたる中に於て歸化的日本人——君より見たる韓化的日本人を制束して保護政治の妨害者を放逐したるを以て著名なる政蹟なりと評判するものもある、然し君の容貌を見るに三分の覇氣と七分の俗氣が混化して居る、其方腕は方面の多殷なるに拘らず廣くない、其氣概が十分顯はれて、廣く見に るが餘り強くない、斯る都合好き地位に立ち乍ら、君の門下に於て崇拜者の反響は寂寞である、想ふに是れ君の人材が偉大ならざるに非ず、君より更らに偉大なる政界家伊藤公ある爲めに、其人影は埋沒されたのであらふ。

總務長官の下に於て木內君は農商總長であつた、鍋島君は外務總長である、岡君は警務總長であつた、此三總長は鶴原君と加へて統監府の四天王であつた、其保護政廳の旗が堂々と南山の麓に立てらる丶や、十万の殖民者は人材雲の如き政廳の人材顏揃を觀て歡喜の情を表白した、就中岡君は良二千石より轉じて警務の長となつたので半島の生命財產は君の警察政治によりて鐵石よりも堅くなるであらふと想像したかもしれぬ、況んや其下に於て龜山君の如き下情に通じ、冷靜なる頭腦を有せる好課長あり、澤田君の如き敏捷なる警察官ありて補佐するに於ては宮中肅淸位は直ちに勵行せらるべく豫期された、而かも別働隊として丸山君は韓國の警務總理の地位にあり、氣脈相通じ、緩急宜しきを得て、着々警察政治の模範を示さるべく期待した、然れども何程韓國なればとて、陰謀史二千年を繼續したる古國であるから、以上の期待は實以て餘りに過分であつた、義兵、暗殺、密使、各種の外交的狂言は連發的に發生して終に今日の時勢となつたのである。

我儕は餘り岡君を評判する程近距離から目擊せざりし故、茲に世の評判記を借ることとする、君は惜しき良二千石を棄て丶何故に一總長に轉したりし乎、彼の嚴格なる姿勢は一種の勇氣を示して居る、勇氣と謂ふよりも大なる才氣を顯はして居る、角度正しき君の顏貌に於ては餘り變化著しき行路に於て君の立脚地を定むることを許さざる性格を讀むべくある、今や警務を去りて農商工部次官と轉進されたるを見て、君の出所に聊か安處を得ざるかを疑はしむ、我儕は各般の空權屋が大臣の官邸を窺ふ門戶に於て君をして守衞せしむるを甚だ遺恨とするのである。

外國武官の觀たる大演習(四)

(某强國武官の批評)

▲大演習の總評 當大演習第二次の大衝突が本日(十八日)下總谷田貝の線で行はれましたが、其經過を見ますと、これは歩兵の運動上大に注意すべき價があると思ひます、今早朝の形勢では、東軍は結城谷田貝の線から一躍攻勢に轉じ、猛烈にも其主力を集中し來れる西軍の左翼と相對峙する有樣となりましたが、折惡しく夜來珍らしい濃霧であつたので、西軍は之を利用し、遠く東軍の右翼を迂回し其側背を脅かした行動は作戰上大成功と見るべきものでせう

本日の講評で承はりますと、西軍の行動宜しきを得たとありましたが御同感至極です、去る十六日第一次の衝突に近衞の一枝隊が、東軍の左翼に對して迂回運動を斷行し、地形上の不利があつたにも拘はらず、猛然攻勢を取り來たる東軍を遮止した行動と第二次に東軍の右側を脅かした行動とは實戰上に適用して大に有効なものであらうと首肯かれます、東軍の活動とても固より目ざましいものではありましたが、某の方面に其歩兵の主力を集中した爲め大々的に活動せる西軍の襲來に對し、其應戰物足らぬ感じがあつたのではありますまいか、私の考は充分の材料が無くつての觀察ですから充分具體的には申上げられませぬが、こんなものであつたのではないかと想像されます

▲衝突一剎那の光景 日本歩兵の突貫力の强い事は豫ねて耳にする所でありましたが今度始めて目擊しました、成程美事なものです、私は本日境村前面の水田中に二個聯隊の對抗運動を見ましたが、兩聯隊相距る千米突より漸次百米突の間に接近する光景は眞に油繪か活動寫眞にでもして見たかつたのです、各兵の運動大膽機敏能く機會地物を利用するの一事間然する所なく、殊に兩軍迫つて生死決すと云ふ場合に、泰然自若として其の精力を極度に發揮する工夫などは申分がありません更に進んで五十米突の距離に近いた時には歩兵の火力を補ふべき機關銃の運動さへ目さむるばかりの活氣を添へて、壯觀と言はむか、痛快と言はむか、假戰とは知りながら私は手に汗を握つて意氣の頗に昇るを覺ねました、斯の如き勇敢猛烈の態度、此突貫力には敵が無い譯です

韓國農業經營談(上)

(村井銀行主村井吉兵衞氏談)

▲村井農場の設備 余は農業に精通する者にあらざれども日露戰の始まるや其の効果を至ふするには韓國に我が邦人の資本を投じ經濟上の實益を收得せざる可らず而して之が手段として最も有利なるは農業に依て發展するに若くは無しと思惟し先づ人を派し土地の買收に取掛らしめ之が爲め約三年の日月を費せり土地買收に就ては各居留地の一里以內は隨意買收せしも其の以外の地は韓人の名義にて順次買取の手續を履めり而して今や農場を開き着々進行中のものは慶尙南道昌原郡にして馬山浦鐵道進永驛の傍にあり農場の全面積は三千町歩の廣きに渉り周圍十八町二十三間、直徑二里餘の廣漠たる平原なり三千町歩の內二千町歩を水田に、千町歩を畑地に爲す計畫を採り專門技師の設計を以て總て米國に行はる丶大農組織を採用し昨年來邦人を入れて着手し目下十名の日本事務員と韓人の小作人三百名を使役し居れり而して同地は從來洛東江氾濫のため水害を受くること頻々たりしを以て之が豫防工事を施し幸ひ洛東江を去る約一里の所に櫛齒の如くに群山の連續せるものありて之を利用するに天與の好地形を爲せるを以て其の山と山との間に幅二十尺の大堤防を築き永遠に氾濫の危虞を根絕せしめ又洛東江より農場に流れ來れる河川を利用し其の入口に幅九尺のアーチ形の水門を設け之に依て農場內の灌漑、排水を自在ならしむることゝせり此の設計たる韓國には勿論、我國にも未だ見ざる大規模のものにして農業經營上完備せるものと云ふも過言にあらざるべし、

▲稻作最も好望 余は今回實地につき親しく之を巡視し且つ本年始めて植付け收穫したる稻株を持歸り之を內地のそれと比較するに稻の丈は六尺餘ありて且つ藁は內地に在ては稻穗の下部にも達せざるものなるに余が農場の稻は殆ど稻穗の上まで藁のし居りて其の生育の好良なること實に望外なりき元來同地は長く洛東江氾濫の爲め自然的に肥料を持來り幾年となく堆積したる此の自然的の肥料は何尺となく重り居るを以て少しも肥料を施すの要なく自然に生育するの狀は實に內地にては見る能はざる所なり而して其の收穫如何を見るに一段歩に付二石乃至二石五斗の出來上りなり是創業當時の收穫なれば今後各種の設備完成したらんには內地に於て最も多額と稱せらる丶一段歩四石の收穫には優に達するの見込なり當に肥料を施すの要なきのみならず土地の負擔たる納稅も殆んど有るか無しかにて又除草の如き內地にては前後三回の手數を要するに韓國にては前後一回の手數にて事足るなり此の天與の至便と大農組織の經濟的利益と相俟つて前途非常に有望なるものあるを確信し居るなり

文苑

四季雜吟　玉井南軒

秋立つやむぐらが庭の草の上
高樓の灯は更けて水の音
背の子に泣かれて戻る踊哉
詠み込まん浮雲もなし今日の月
澄めばにざりける月今宵
山寺の硝子障子や萩の花
旅僧に一夜貸しけり萩の宿
往き戻り馬にふまる丶小萩哉
月落ちて燈籠に迫る秋の色
去年吊りし人の吊らる丶燈籠哉
庭深き切子燈籠や茶の手前
雁來るや八重の潮路を幾泊り
筆の海や空に文かく雁の群
百貫の岩にも響く砧かな
一村はきぬたに更けて牛の聲
村長の家に競ふて砧かな
煤掃やうかとは捨てぬ反古包

小說 紘のみだれ(十四)

永井櫻園

包の中より意外にも十五圓と云ふ紙幣が出たので、清之助が驚き顏に眺めて居ると勇五郎も醉眼ながら早くも認めて

『そりや何うしたお金だ、其のお客にでも貰つたのか。』

と、覗くやうにする。

『はア、歸りがけに其書生さんが下すつたんですが、豈夫凭麼に入つて居らうとは思はなかつたのに、十五圓入つて居ますわ。』

『ほ丶ツ、十五圓入つてる、然うか、そりや剛氣だ、一体其の書生さんと云ふは何處の方なんだ。余程財產家の息子さんと見ね



と、金子の顏を見て、急に書生に尊敬の辭を拂ふ。

『何處の方だか些とも知らない方なんですよ。』

『おやアお前聞かなかつのか。』

『はあ……。』

『何と云ふ迂濶坊だ、御贔負にして下すつて御馳走して下すつた上に、大枚十五圓と云ふ御祝儀まで頂きながら、住所も聞かないなんツて事があるもんか、御名前は知つてるのか。』

『はあ、お名前だけは歸りがけに尋ねたら、これに書いてあると云つて此金包を下すつたから、今見て漸と知りましたの。』

『何て云ふ迂濶坊だらうね。其樣茫然した事で藝人が立つて行くものか、女義太夫なんて云ふものは、何程人氣が出たからつて寄席から取るお金なんてものは高の知れたもんだ、假令ば相當に入つたにしろ、名が賣れて來りやア、賣れて來るに從つて、夫相應に金を蒔かなきやア、仲間の義理が宜く無い上に、他樣に立て丶も貰へない道理だから、立派な着物を着たり、旨い物を食べたり、私に樂を爲せやうと思ふには、何うしても宜い贔負を作へて、何程かのお金を貰は無きやア行つて往けるもんぢやない、それには誰方に限らず御祝儀を澤山下されるやうなお客は、痒い所へ手の屆くやうな待遇をして、一人でも逃さん工夫を爲なきやアならない、然うして澤山な贔負にして與れたお客の中から、此人ならばと見込の附いた財產家を撰むで、亭主に持つなり、妾になるなり、身を定めるのが藝人の特權なんだ、昔から氏無うして玉の輿と云ふのが此の事だ。

それだのに、些と料理店に招んで大枚十五圓も祝儀を與れるやうな客を、住所もい、察する所、其の書生さんと云ふは、書生さんの內でも余程富豪の息子さんに違へ無へから、それは必ず贔負にして與れる積なら、其內又必然聽に來るに相違無いから、這度顏を見やうもんなら、お前の方からお鉢の一皿も持たして遣つて、能く御禮を言はして置くのだ、然うすると、藝人から遣物を受けて其まゝに爲て置く氣遣はない、必然相應な返を呉れるに違ひ無いが、これが客を嬉しがらせながら、鰕で鯛を釣る方法なんだ、其處で祝儀でも與れたら、這度はお前が直接會つてお禮も云つたり、住所も聞いて、眞箇見込のある客だつたら、汚ない家だけれども些と宅へ遊にお入來下さいと、如才なく世辭を振蒔いて世話になるのが利巧なと云ふものだ。必ず忘れんやうにして氣を利かすが宜い。』

と、客を操る方法を喋々と說き聞かして、又杯に熱燗を注いで飲むのであつた。

京城新報

暴徒鎮壓策

其道を得ざれば細民も木刀竹旗を携へて亂群に入る、暴徒鎮壓の計只だ偶然の計謀焉んぞ克く制し得んや。皇帝親ら車駕を八道に起らし玉ふ能はずんば、皇帝親ら國老を招き、百姓を安んずるの誠意を示されなば直ちに鎮靜せんのみ、枝葉細末多々講じて暴徒の勢多々起るを發ふるのみ。

經濟協會の好例

最近の經濟協會は衆意に從ひ、能く門戸を開放し、意見交換の自由を示して餘りあり、斯くして協會の隆盛を期し得べし、希くば東洋協會も亦た斯好例に從はんことを。

龍山の民政

龍山の民政に參與せる黨派的爭鬪は、終に官府にまで訴へて所謂總代大村派を破壞すべく企てたり、青樓に招き黄白を用ゆ、是れ往々選擧場裏に行はるる通弊なるのみ。直ちに僅少の欠點を取し、直ちに之を法庭の前に訴ふ、人心の危險も亦た甚しからずや、是れ龍山の民政は重ねて黨爭の波瀾を見るの日あらんか。

東京電報

▲韓太子の路程

韓國皇太子は下の關に一泊の上途中見學の都合にて宮島、舞子、京都、名古屋、靜岡に各一泊又は二泊の上入京の豫定なり

▲革命黨檢擧

浦鹽發電によれば去月來嚴重の檢擧にて捕縛せられたる革命黨嫌疑者八百名に達し尚續々檢擧中なり(以上廿六日午後發)

▲伊藤公の歸任期

伊藤統監には天皇陛下の御思召に依り嚴寒中は内地に滯在し明年春暖の候を俟つて歸任すべし(廿七日發)

各地電報

▲賊守備隊を襲はんとす

多數の暴徒は江原道清平店の守備隊を襲はんとするの情報あり昨夜午前一時春川守備隊より十五名援として派遣せしに途中午前四時頃琵琶嶺に於て賊徒三十と衝突し之を擊退せり我に損傷なし(廿六日春川發)

▲厚侍嶺の激戰

北靑郡騷擾事件に付き咸鏡南道より岩田警視出張せり昨日厚侍嶺にて約三百の暴徒現はれ頑固に抵抗したるが即死三負傷四(我の損害か疑問)賊死体二十を遺棄して逃走す野上警部より未だ報告なきも分遣隊と共に新法里に在るべし松下警視は明日未明厚侍嶺に向ひ出發すべし(廿六日北靑發)

▲同續報

二十五日午後零時三十分我隊が厚侍嶺の頂上に達せんとする時賊は頂上に木材或は雪にて掩堡を作り銃眼を設けこれに據りて我れに向ひ射擊せし故に我隊は全力を擧げてこれを射擊するも賊の射擊も亦た猛烈にして退却せず激戰三時間に亘り漸くにして敵の主力はシンテン方面に一部は西方に退却せり敵の死体二十一負傷せし者二三十を下らず我兵の戰死者卒三、輕傷四、賊の死体中新谷少尉の袴を着せしものあり又三十年式彈藥箱數個遺棄しあるより見れば新谷少尉一行二十三日此の地附近にて戰死したるものならん乎(二十七日午前七時咸興發)

雜報

報聘大使任命詔勅

完興君李載冕氏が報聘大使として本邦に渡航することは既報の如くなるが右につき皇帝は左の詔勅を下されたり

詔に曰く隣交益々敦く禮として宜しく報ふべし特に完興君李載冕に命じ大使として日本に前往せしむ

軍艦宗谷の着仁期

日露戰爭の勢頭仁川港に於て我勇敢なる海軍の一擊に依りて脆くも沈沒したる軍艦ワリヤークは爾來幾多刻苦辛酸の下に引揚げを了し修繕完成の後宗谷と稱して我艦籍に入りし事は世人の知る如くなるか今回韓國皇太子御遊學に付き御渡航中の護衛艦に供へられたるが愈々十二月一日仁川港に着すべしと、思ふに宗谷艦にしてもし靈あらば當時の光景を追想して轉た今昔の感に堪へざるものあるべし

皇太子留學陪從員任命

今回韓國皇太子日本御留學に付き一昨日左の如く陪從員を命ぜられたり

宮内府大臣	李允用
農商工部大臣	宋秉畯
宮内府特進官	嚴柱益
陪從武官長	趙東潤
侍講院詹事	高義敬
宮内府大臣秘書官	尹世鏞
陪從武官	金應善
修學院教官	嚴柱日
農商工部秘書課長	李範益
表勳院書記官	鄭東植
宮内府書記郎	高義中

●各大臣の撮影 總理大臣李完用氏始め各大臣は一昨日農商工部大臣宋秉畯氏邸にて撮影したり右は我皇太子殿下御還啓の際紀念として獻上する筈なりしを以て撮影したるものなりと

●伊國領事館の午餐會 伊國領事館にては本日副統監石塚參與官佐竹秘書官木内、俵の諸氏を招き午餐會を催したり

●氣早き政客 氣早き韓政客は大韓、一進の聯立内閣が近日現出するもの丶如く盛に喧傳せり

●來年度歲入 暴徒蜂起以來地方の收稅不可能となりたる爲韓國來年度の歲入は殆んど皆無の見込なる由にて必要の歲出は一時某銀行よりの借入金にて濟ますことなるならんと云ふ

賊徒の全滅

沔川口暴徒襲來せしとにつき德山分派所の報によれば去る二十三日午前二時暴徒約百余名密かに沔川を襲ひ分派所郵便取扱所の全部及民家二戸を燒棄せり此所に於て分派所三名の巡査は奮戰の後二西面南元浦に於て賊は韓船二隻により逃遁せんとするを追及し四時間に亘る奮鬪の末其一隻に搭乗せしめたるに賊は死傷者及銃器を他の一隻に移し南陽灣方面に向ひ逃走したり鹵獲品は船一、銃九、刀四、彈藥若干、米五斗、衣類雜品數十餘點にして賊の死傷甚だ多大なりしが如し尚分派所の損害は各巡査の武器彈藥を除くの外は建物及び官私有品等を燒かれ郵便取扱所にありては爲替證書類切手の幾部及現金を搬出したる外全部燒棄されたるもの丶如し此の急報に接し岩田警部は直ちに巡査三名巡査五名を率ひ洪州憲兵分遣所よりも下士以下八名を急派し共に賊情偵察に向ひたるに唐津分派所は應援のため急行し來り德山分派所と聯絡を通じて其情況を知るを得たり尚分派所建物は全燒したるを以て臨時郡衙書記廳に於て事務を執ることゝし一時避難したる郵便取扱所長も歸任し郡衙附屬官舍に於て事務を開始せるを以て當方面の通信は遲滯なからしむるを得たるが洪州郵便局長は自ら遞送人を率ひ分派所の援助によりて當方面への差立郵便物を逆送しつゝありといふ

賊將を殪し巢窟を燒く

楊口郡に向ひる春川軍隊及警察隊は賊の巢窟たる楊口さ金安里とを襲擊し賊將金德鎬金老窩及副將三名外十二名を殪し彼等に多大の損害を與へ潰走せしめウリヨウを捕虜し倡義大將と書る旗四旒並に印鑑及銃器五軍刀一を鹵獲し且巢窟家屋三十を燒きたり因に金德鎬は軍部大臣より逮捕の命を發せられたるものなりと

暴徒京城附近に顯はる

一昨二十六日午後六時頃西氷庫の向なる纛室林といふ所にて日本人の賣藥商一名銃殺せられたるを發見せり途說する所によれば加害者は多數なりといへば或は暴徒の襲來せしにはあらざるかにつき龍山警察署及び憲兵分隊より取調の爲め出張したりといへば遠からず事實判明すべし

暴徒民家を燒く

去る二十一日慶尙北道金川代項面盤谷洞に暴徒約三十名來襲し火を放つて三十戸を燒失せしめ金品を掠奪し二十四日には今の暴徒巴稱面鳳溪里に現はれ兩班某方に至り金員を强請したりといふ

春川の暴徒

一昨二十六日我隊は江原道春川郡鐵巴嶺附近に於て暴徒三十名に遭會し是を擊退せり

●暴徒嫌疑者捕縛 去る二十一日忠淸南道藍浦に於て暴徒の嫌疑者崔昌均外四名を逮捕せり

郵便局の遭難

去る二十二日忠淸南道沔川に來襲したる暴徒は先づ警務分派所を侵し尋て郵便取扱所を急襲せり所員は郵便物、官金、爲替證書類切手等の幾部分と短銃を拾收し避難途中南門外に於て賊の追擊を受け短銃を以て防戰しつゝ逃れ德山に遁れしが即日洪州より我憲兵及び警官の出張せしを以てこれに尾して歸任せしも廳舍の大部は暴徒の爲めに燒却せられたるを以て新たに家屋を收用し郵便事務を開始せりと

京城第一小學校新設

京城に於ける我在留民は年一年に增加し居留地發展の區域は驚く計りに擴大せられ現今に於ては城の內外至る所として本邦人の在留せざるはなきの狀態にあり之れと同時に學齡兒童の如きも又た年々增加し現在の校舍にてさへ收容する能はざるを以て今より一兩年を經過せば如何に兒童の增殖するやは豫め知るを得べし之が爲め熊谷民長の如き一方ならず苦慮し居りしが今回南大門內なる保稅倉庫を買收し小學校敷地に充てんと數日來交涉中なりしに遂に一昨日交涉纏りたれば來る二十九日頃委員會を開き小學校建築及び將來の方針に就き協定する筈なり同小學校は二十級の敎授をなすの設備にて設立の曉は西部小學校とし現在の校舍を東部小學校とし東西兩部學齡兒童の便宜を圖るべしと云ふ

●民團役所の會計檢査 京城居留民團會計委員は來る三十日理事廳員立會の上民團役所の會計檢査を行ふ筈なり

新町名と戶番

京城居留民團役所にては今回韓人町に我邦人の在留するもの著るしく增加し韓國の洞名にては不便少からざれば此等の地方に日本町名を附することゝし今明日頃發表する筈なり又た現在の各町には何丁目とあるのみにて戶番の稱なかりし爲め居留轉居等の屆出其他の取扱事務に不便を感せしこと少しとせざりしが之又た現在の各町及韓人町にても本邦人一名にても居住し居る地方は新町名及び戶番を揭示することゝなりたれば郵便配達并に本邦よりの新渡來者に對しては少からず便利を與ふるに至るべしと云ふ

●仁川民團所有地書替 從來仁川民團の所有地は總て日本居留民役所の名義にて屆出ありしか民團法施行の結果今回右土地を悉く民團民長富田耕司の名義に書替へたり

●小學校々則改正 本年三月全國小學校令改正の結果在韓指定小學校の校則を改正すべき必要起り今回仁川小學校に於ては過般其改正を實施せり

殖產會社の支店設置

韓國殖產會社が本店を釜山に有することは世人の知る如くなるが今回仁川に支店を設置することに決定し愈々來月中旬より開店執務すべしといふ尚今後同地經濟界の趨勢如何に關しては或は釜山の本店を同地に引移すやも計られずといふ

仁川米穀鑑定價格引上に就て

(朝鮮新報の誤報)

昨紙朝鮮新報に於て米の鑑定價格引上げと題し仁川稅關に於て輸出韓米鑑定價格を總て二十錢方引上ぐる內議ありと報せるも右は事實無根にして本紙昨日所報の如く目下審議中に係り未だ其引上價格については決定したる譯にあらずと而して朝鮮新報の記事は單に稅關鑑定課長が私見を洩したるより起りし誤報なるべしと吾人は斯の如き經濟上の重要問題を一稅關吏が徒らに稅關の方針なりなどゝ言外するは甚だ輕卒の議を免れざるべしと信ず、因に右引上げに就ては以上の如く目下稅關に於て調査中にて一般米穀に對し十錢乃至十五錢方の引上げを見るに至るならんと某稅關吏は語り居れり

●商船の臨時船 大阪商船にては來月より定期船を增加することゝなりたるは既報の如くなるが本月末も相應の輸出入あるを以て河野浦丸を臨時船とし門司にて村木石村を積み込み昨日入港したるが當港よりは石油米等を積みて大連に向ふ筈

輸出重要品商況 (三)

仁川商業會議所調査

八月となりては米の端境期にもあり前月京城密使事件に次で地方の暴徒より生せし一時の影響なるべきか玄米及籾の入津は餘程廻着を減し小口ものは相變らず弗々入荷あれども重もに當地精米所用にて大口もの丶入荷は殆んど減少するに至り前月の好況に比しては太に寂寞を感じたり兵阪市場に於ても前月案外多額の輸入ありて在荷稍推積して供給超過の狀況を顯はし思惑筋も見送りの姿にて相場氣弱く當地玄米の輸出は不引合となり小口ものは弗々輸出ありたれども纏まりものは捗々しき輸出を見ず月末に至り東海東北近畿等水害の爲め東京大阪其他の定期市場は頗る强硬の氣配にて何れも生れ値以上に奔騰し從て正米市場も活況を呈し當港に買注文を發し來れるもの多く當地正米は輸出商筋の買進みあり氣配も幾分引締り來れり九月に入りても同樣阪地商のため輸出商筋の買進みあり氣配强硬にて賣れ口好く相場も玄米上十一圓七八十錢次品十一圓二十錢乃至五十錢位となり上旬に於て約一萬叺の玄米は阪地に輸出せられ加ふるに大連に向けて精白米千三百餘石輸出あり當港の在米は著しく減少を來たし約一万四五千叺の在米を殘すに至り或は此上相場の騰貴するやも計り難き情況を呈したりしが中旬となりても正米は阪地の好況に連れ日々相應入津あり輸出も亦續々行はれて相變らず好氣配を顯はせり例年八九月は正米の端境期なるを以て蓄積前に幾分入船あるの外入津至極減退すべき筈なるに當年に限り此日まで籾玄米等の入荷續々絕へざるは是迄になき現象にて畢竟今年は昨年豐作のため多額の圍ひ米存在せしと一には本年豐作の見込立ちたると又一つには地方暴動のため掠奪を恐るゝなどの事情によるものなるべし近來無比の景況を示し尚續々出廻はり絕へず相場は四五十錢方引緩みたるも買手筋は先安見込にて人氣弱く薄手合にて日を送りしが中旬に至り阪地の相場もヂリ〳〵安模樣を示し殊に韓國の豐收を見越せることゝて大連其他の輸出口多き折柄にも拘はらず買手は何れも安唱への矢先き新米は弗々忠淸道もの顯はれ相場は十三圓五十錢にて取引あり月末に至るも渐古きも相變らず入荷あり相場は幾分軟歙のまゝ日を越へたり

●軍需品輸送 當陸軍運輸部にては明日當港を出航すべき木浦丸にて冬季被服若干個を群山木浦の兩守備隊に輸送する筈なり

鑛業權許可

鑛業法により昨日鑛業權の許可を與へられる者左の如し

金 慶尙南道陜川郡上北面六九二、七七〇坪 京城明治町一丁目唐川立造方 山本維城

金 慶尙北道高靈郡仁谷面八〇八、八二五 山本維城

澤田書記官等敍勳

統監府書記官澤田牛麿氏以下へ韓帝より左の如く敍勳せられたり

特敍勳三等太極章(各通) 統監府書記官 澤田牛麿
　京城理事官 三浦彌五郎
同 統監府通譯官 前間恭作
　川上立一郎
特陞敍勳四等太極章(各通) 鳥居忠恕
特敍勳五等太極章 統監府書記官 小松綠
特敍勳二等八卦章 統監府書記官 兒玉秀雄
特敍勳三等八卦章 同 荻田悅造
特敍勳四等八卦章(各通) 同 本田駒次郎

●敍任辭令

休職統監府鐵道管理局事務官 瀧脇熊次郎
命復職(十一月十八日)
統監府鐵道管理局技師 舟塚芳次郎
同 事務官 大島長藏
同 同 村瀨鐮次郎
同 事務官補 川崎庫之助
同 同 坂田清勝
陞敍高等官四等(十一月二十二日)

●韓官敍勳

前度支部次官柳正秀氏以下へ左の通り敍勳されたり

特陞敍勳二等八卦章入 前度支部前次官勳三等 柳正秀
特敍勳二等八卦章 度支部前協辨 玄普運
　經理院卿 崔錫敏
特敍勳三等太極章 京畿道觀察使勳四等 李圭桓
特陞敍勳三等太極章 内閣外事課長 李建春
特敍勳三等八卦章 度支部司計課長 李鶴圭
同 理財課長 李濟相
同 書記官 成夏國
同 金命圭
同 飜譯官 朴容九
特敍勳五等八卦章
特敍勳六等八卦章 前郡守 趙元奎

●鍋島直映氏歸朝 鍋島直大侯嗣子統監府囑托鍋島直映氏は昨日午前八時五十分南大門驛發にて一時歸朝の途に就かれたり同驛には舊藩臣の見送頗る多かりし

●松江内藤兩副官の出發 駐韓軍司令部副官松江少佐同内藤大尉は昨日午前八時五十分南大門驛發にて何れも轉任地へ向け出發されたり

●野口一銀の出京 野口第一銀行仁川支店長の氏は昨日上京せり

●板倉五八支店長 仁川五八支店長板倉政次郎氏は本紙轉任の記事を非認し居るゝ由なるが本紙は重て同記事の不違事實となるべきことを讀者に報道するものなり尙右に關し京城五八總支店某氏の談話を聞たれども今は必要を見ざるを以て揭載せざるべし

●法部次官歡迎會 法部大臣趙重應氏以下奏任官以上は一昨日明月館に於て倉富法部次官の歡迎會を催したり

●仁川局員送別會 仁川局員は來る卅日今回仁川郵便局長より咸興郵便局長に榮轉したる田代局の送別會を催す筈

●淸華亭會合 過日伊藤大師が淸華亭に行かれたるは橫山氏送別の宴に列する爲にて政治的意味なかりしなりと高崎男より申越されたり

▲治外法權▼

每度面白くもない鶴原君の事を書いて讀者諸君には相濟まぬが之も浮世の義理と御勘辨を願たいのである▲ソコデ今日はドンナ事を御披露に及ぶかと云ふにソレは最近に鶴原君が當地大和町の某官邸へ民間の人士を出入させまいと一生懸命干涉を試みて失敗したと云ふ事である▲ツイ數日前相當顏の利いた民間の某氏が大和町の某官邸を訪ふた、邸の主人公は喜んで某氏を引見せられ、種々なる御懇談があつた、すると此事を知つた鶴原君は早速某邸の秘書役に向て彼の如き人物を貴邸へ出入させてはた爲にならずとサモ心切らしく中傷的抗議を申込んだ、秘書役氏は此抗議に接した時變に思つて呆然自失したと云ことである▲一体誰が大和町の某官邸を訪はふと又其邸の主人公がドンナ客を引見してドンナ話を聞かれようと夫は主人公の勝手であつて敢て鶴原官房長殿の干涉を必要とせぬのである尤も鶴原君が〇〇に聞かれて惡いことがあるならソレは格別であるが▲話は少し變るが某氏が今春早稻田を訪ふた時に早稻田の書生は當時在京中なりし鶴原君とモウ一人の方が某氏の爲めに老伯に向て中傷ならぬ結構なる紹介をして下されたと云ふ事を告げた之には某氏は甚く感激して兩君に向て是非共一度は禮をしたいと言はれて居るソヲである▲中傷讒謗は宦官や御殿女中のする事である堂々たる男子は若し敵を倒サウとすれば須らく彼の後藤蠻術式に正面から戰を宣すべきである、何を苦んで宦官や御殿女中を學ぶの必要がある敢て鶴原君に對して言靈ではないが一寸筆の序に記して置くのである

▲答禮大使入京期

韓國答禮大使は下關に一泊し韓太子と分れ中途靜岡に一泊の上十一日入京する筈(二十七日午後發)

は承寧府侍從長に命ぜられたり

●宮殿伺候者 一昨日の宮殿伺候者

一名にして其重なるものは承寧府摠管趙民

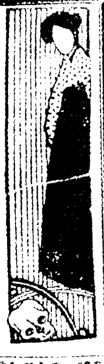
龍九同李喬永陪從武官張然昌侍從院侍從

桂東等なりし

●韓國各部大臣以下[illegible]に一泊し皇太子と共に[illegible]に一泊の上十一日入京する筈（二十七日午後發）

●承寧府侍從長　宮內府特進官金春熙氏

[illegible]一名にして其重なるものは水原府摠管趙民熙承寧府侍從洪運翔同尹[illegible]植同尹[illegible]求同李[illegible]



「無限の熱血」を讀む　二

錦陵生

君は實に極貧なる家庭に生れ食ふに物なく着るに衣なく父子相抱いて饑に叫び、兄弟相擁して寒に泣くこと屢々にして其の悲痛慘怛たる光景は實に名狀すべからざるものありき

君が父は固と生魚商なりしも至つて小商人なりしが上に家族多く且つ平素酒を嗜むの癖ありしを以て到底一家の生計を支持する能はず困苦窮厄の狀一日として人間らしき生活を營みしことなかりしを以て君は既に幼年の頃より可憐にも一挺の天秤棒を肩にし父に從つて一意家計の補助に務めしも幼少の身の之が一日の稼ぎ高さても至つて僅少なりしかば君は只悲哀の念の其の小さき胸を焦すのみなりき、斯くして君が家庭は貧困の中に寂しき春を迎へ憐れなる秋を送る中に君は早や十四才の少年とはなりしが何時迄も斯くしてあらんには此の身の出世は勿論現在悲慘より悲慘の淵に陷り行く一家の將來も覺束なく前途如何はせんものと思案に掻き暮れしも亦翻つて考ふるに古來幾多の英雄豪傑は皆な此の赤貧困苦の家庭より身を起せしものなれば吾と雖も今より心を籠め意を決して刻苦勉勵の効を積まんには必ず何れの日か之が目的を貫徹せざるの理なかるべき夫れに就けても第一に必要を感ずるは讀書講學にあるを以てマヅ之が最初の手段としては校僕に入るに若くはなしと爰に其年の秋畫川小學校の校僕に雇はれ掃除使走りの外行坐眠食の間と雖も手卷を離す事なく屹々として之が勉勵に怠りなかりき

されど君が家庭は益々貧困より貧困の極に陷り夢寐君をして袖に淚の乾く間とてはあらざらしめにき、當時其の窮狀の一節を擧ぐれば

予が校僕にて苦學時代に於ける家計の貧困は今更言語筆紙の盡す所にあらざれども、マヅ居宅は竹の柱に藁壁藁葺四疊敷の一小陋屋に兩親を始め予等兄弟都合八人起臥し居ることとなれば實に膝を容るゝの餘地とてもなく冬は膚を刺すの北風藁壁の隙間より洩れ入りて寒氣云はん方なく襤肉の如き一枚の敝れ蒲團は之を父に覆はすれば母及弟妹は更に纏ふべき繿縷もなく土間の片隅に在る藁莚を持來りて母子七八人共に之を覆ひ身慄ひしつゝ僅に寢に就くの悲慘は與に彼の本妙寺路傍に於ける乞食の境涯よりも尙甚だしかりし、斯くて又炎暑の時は暑を避くることも能はざるのみならず夜は蚊帳とてもあらざれば熟睡したる弟妹等の身体には蚊軍群り來りて葡萄の房せる如く簇集せるを以て母は每時も予に一錢銅貨一枚若くは天保錢を持たせて艾の粉を買ひ來らしめ之を室內に薰らして蚊遣火とせられしも時に依りては僅か此一錢乃至八厘の金さへなくしてもぐさの粉を買ふこと能はざることも少なからざれば斯かるときは生杉葉を取り來りて之を燒べ蚊軍の襲來を防ぎし等其貧困の狀到底人の想像の及ぶ所にあらざりし

誰が此の一文を見て同情の淚を灑がざるものあらんや赤貧の惡魔の手は實に假借なく君が一家六人の生計をして困苦より困苦の境に陷らしめたるなり（未完）

韓宮室の大賊捕はる

韓國皇太子嘉例の際に買入れたる寶玉衣類其の他韓貨に見積つて約五万兩の物品いつの間にか影を失ひたるより其の嫌疑は飛んだ所にまで及び是れが爲めに迷惑せし者もありしかども例の巡檢の手際にては斯る大賊の發見すべくもあらず荏苒日を經たりしが一兩日前憲兵によつて其の犯人と認むべき咸寧府附軍士宣洙王外一名を逮捕せりと聞く

●仁川衛生組合委員　仁川衛生組合委員の就退を聞くは第十三區の赤松吉藏氏は去る二十五日病氣のため辭職し其後任未定第十七區は去る二十二日藤田駒吉氏は補缺として就職第十九區の石崎丑太郎氏は他區に轉任したる結果其後任として去る二十七日大森寶太郎氏又た同樣岡崎由五郎氏の後任として去る二十五日松本要五郎氏本日石村兵太郎氏は補缺として就職したり

少女の大當惑

狡猾なる口入業者
不屆至極の飲食店

私の姪も此の春から朝鮮へ行つて居るまだ一年にならぬに既に何千圓といふ大金を貯へて銀行へ預けてあるとの手紙が來て居る夫れで私も近々朝鮮へ行うと思ふて居るお前が往つて見やうといふことなら幸じや私が連れて行く何旅費などの心配がいるものか私が取替ねて進せる朝鮮へ行きさへすれば直ぐと金が儲かるのだから前の旅費など取替るのは懷中して居るのも同樣じや善は急げといふから決心さへついたら明日からでも出發せんと逍に奸智に長けたる丈吉の辨口を乙女心に眞實のことゝ思ひ倘し今の主人に覺られなば折格の事も引留らるゝ面倒も起るべしとの丈吉の注意も親切に感じ幵が差圖のまゝに密々に旅費を調へて丈吉と共に此の韓國に着せしは去月三十日のことなりとか扨も丈吉は如何なる考あつてか釜山にも足を留めず直ちに汽車に乘つて南大門停車場に來り京城へは入らずして龍山に足を向け其の夜は只ある旅宿に投じたるリウは丈吉が言へりし如く世界の金持が集合して居る所といへば定めて立派な家屋が建て列ねて居るであらう其の金滿家へ奉公するには如何にせば宜からうか併し外國人の內であつたら言葉が通せぬで困るであらうなど種々の取越苦勞に夜の眼も眠らず鳥雀軒に騷ぐに驚いて雨戶を開き外を見れば意外千萬にも其の傍らの家屋は何れも豚小屋か新小屋同樣で大厦高樓さては只の一戶もなきに當惑しハテ變だとは思つたものゝ今は詮術なければ丈吉に夫れとも言はず二日三日を暮す內に能き奉公口こそありたり前借として金八十圓を今日渡し呉るゝ筈なるがお前も此の樣な身裝では奉公は出來ぬから此所に着物も買うて來たマア着て見るがよいと言はれて是れ迄手織木綿の外は身につけたことのなき者は瓦斯縞でも嬉しふ思ふに是れを着て某料理店に見合に行き相談直ちに纏まつて八十圓は丈吉が受取り此の內より船賃と滊車賃〆旅宿料とを拂ひ當地の口入屋にも心配を頼んだから是れにも祝儀をやることゝすれば前の着て居る衣裝代を拂うには少しく不足ではあるが夫れはまたお前が澤山とた金を儲けて歸つた時に貰うことにすべしとて鐚一文も渡して呉れず丈吉は其のまゝ歸國したれば何と話をつけることも出來ず此の先きは如何に成り行くことやらと悲歎して居ると料理屋の女將が此の內で辛棒さへすれば月に二十圓や三十圓はお客樣から纏頭を下さると聞き半信半疑で二三日を送れど聞いたほどのことがなきのみか女將よりは淫賣をせよと迫られこれを否めば八十圓の金耳を揃へて今返せと手づめの談判一度二度は兎や角と言ひ遁れても到底これを免かるべきにあらずと思ひ同僚の親切らしき仲居に相談すると其の仲居も不平がありしと見ゑて此んな所に居るものでない此所より小一里行くと京城とて日本でいへば東京ほどの繁花な處がある才前も行く氣なら一所に行かうと誘はれ本月の四日に他用にかこつけて二人が京城に來り口入屋を頼んでリウは長谷川町の一九亭に前借九十圓にて住み込むことゝなり八十圓は龍山の元雇主に拂ひ殘り十圓を口入屋に周旋料として拂ひ又も無一文にて仲居奉公をする內に同しく亭主より媱賣せよと勸められ否といへば理詰はたろか果ては打擲せられ『そんな來るのじや無つたに落膽々々』と謠ふなどの呑氣のことにならず丈吉が甘言に乘りたるを後悔し又何の因果で斯る辛苦の淵に沈みしか何れの時に浮む瀨のあるべきかと此の頃の長き夜を泣き明しても殘忍酷薄なる亭主は淫賣を爲さゞれば承知せず去りとて歸國せんには一文の貯へもなく進退こゝに谷まつて本町警察署へ驅け込み保護の願を爲せしは去る二十五日のことなりけり

●博覽會の賊は守衛　先きに開會したる當地博覽會第四號館に東京より出品したるダイヤモンド入指環二個（代五百六十圓）が開館中紛失せしといふより其の筋にては百方搜索する所ありしが一昨日其の嫌疑者と認むべき守衛二名を逮捕せり尙は聞く所によればこの守衛は女色に溺れ其の爲めに金に窮し共謀してこの惡事を働らきしものならんさいへり

●人間の屑　山梨縣北都留郡上野原町上條梅次郎（四七）は姓來の橫着物にて國に居る時分より酒と女に身を持ち崩し諞り騙りを渡世となし居りたる代物なるが其の結果國にも居堪まらず流れ流れて天道樣と米の飯は何處にも在ると流れ〱て安東縣に渡り柄にもなく破邪顯正の標榜の下に新聞紙を發行しサテ遠からんものは音にも聞け吾こそは武田信玄第十六代の末孫今の安東新聞（名は不明）社長上條梅次郎とは何を隱さう予が事なり近くば寄つて眼にも見よと其の一張羅の垢泌みたる洋服に堂々と胸反らし靴刷毛の如き髯を捻りながら威張つた所は好かりしも根が詐り騙りの機關なれば忽ちにして地金を現はし終に一時にして土地の領事より在留帝國臣民取締法の許に退去を命せらるゝに至りたれば奴さんチョッコン、チーパリたれど又直ちに胸に一策の踊り來り今度は河岸を替へて新義州にて一仕事せんものと思へ又も同地にも新聞發行を企でしも變にても例の惡行の有り丈を盡しより直ちに又退去を命せられたるがサテも厄介なる橫着者といふべくマヅ此奴等が人間の屑なるべし

●科料の數々　京城大平洞の飲食店奈良縣平民林キクは仲居を雇入れながら成規の屆出を爲さゞりしを以て科料金三十錢▲明治町二丁目疊職山口縣平民森川濟助は街路に塵芥を投棄したるを以て同六十錢▲同町諸車修繕業山口縣平民金光安次郎は道路に車輪を橫へ置たるを以て同二十錢に何れも處分せられたり

樂友會盲評記（二）

耳の八

二日目の分

午後七時陸軍々樂隊千鳥の曲を以て開かれた。熊谷會長が民役所落成式に左を傾けられた勢を驅つて一聲高く、諸君、と呼んで後淳々乎として說かれた公園改造說と趣味普及論には滿腔の熱誠を以て賛意を表する。餘り遠き未來でない間に其抱負を實現せられたいものである。

第一部の方は悉く前日演奏せられた方々であるからなく一足飛びに第二部にと移る。二部の皮切りが、三曲合奏『六段の調』前夜た中管氏が尺八、無名氏及び田治比女史が琴で大喝采を得第一部の方で又々『喇叭の曲』を演じて舞台のゆるぐやうな喝采を得琴、加藤孃が八雲、孰れ劣らぬ腕の人只々感服仕つた。舞踏、又々腹の皮を撚らせられた、前夜より大いに舞台馴れたように見受けられた、演者の名を聞いて驚いた、平素のあの君がかくもまあ思ひ切つた縒り方と一時は呆然と開いた口が塞らなかつた。二曲合奏『萬歲』三宅氏子孃の須磨琴に、某會員の一節切、雪のそれよりも白い菊を品よく活けて琴の上に置かれたる、何さなく聞かぬ先きから奥床しく感せられた人もと知られたる某會員と氏子孃、云ふ迄もなく、記する迄もなく當夜の白眉であつた、唯素練習の程を思ひやらるる次第である。

筑前琵琶、井上千代子女史、四方から待つてゐましたと云ふ聲の起るのも無理のない次第、從つてマツクやれる譯もない、いつ聞いてもいゝ聲である、四條殿であつた、流石竹光千雄女の淨瑠璃『岸の姬松』流石〱人を泣かせる腕は感心のもの。

大呼物の金色夜叉、プログラムは終日の分に入れてあつたが急に人員の繰合せ上切り上げて今夜やるとの西山君の口上、ウマイものであつた。何はさて措き花之助の劇評と云ふたら知らぬ人なき其本人西山君が大立物となつて紅葉先生の金色夜叉をやると云ふ評判、見ぬ先きからもう大評判である。西山君の間、池田君の荒尾、中野君のお宮まあ可なりに出來たと云ふ可きであらふ。難癖をつけたならいくらでもつかうが短日間の練習であれ迄漕ぎつけたのは感心々々一つ云はねばならぬのはお宮の顏である、しこなしは、せりふは、共にはまつて居たが顏がまるで出來て居らなかつた。


化粧品
小間物
河村百貨號